

関市の一大イベント「第三十九回刃物まつり」(関市刃物まつり協賛会、関市、関商工会議所主催)が七、八日に開かれる。刃物大販売市を中心としたまつりは毎年、多くの人たちにぎわい、刃物の街・関の名を全国に広めてきた。まつり協賛会長で、県刃物産業連合会長を務める北村正敏さん(66)＝株式会社・北正社長＝に、まつりや関の刃物の魅力を聞いた。

(聞き手・中山道雄関支局長)

FREE
フリースタイル
STYLE
本日のお薦め記事

―刃物まつりの来場者の動向は。

毎年、二十万人前後の人たちが関を訪れており、客足は安定している。県内を除けば、愛知県の人たちが圧倒的に多いが、北海道から九州まで全国から、お客さんが集まっている。米国、ロシア、ドイツなど海外のお客さんも多い。年々、まつりの知名度が上がっている証拠だろう。

―経済効果も大きい。

刃物大販売市だけで、六千万円から七千万円の売り上げがある。アウトドアナイフ、シヨウヤ、刃物業者の展示場、飲食関係も含めれば、売り上げは一億五千万円程度に達しているのではないか。

―まつりは三十九回目を迎える。

まつりが今のようになったのは一九六八(昭和四三)年だが、その前身となる刃物市は五年から開かれていた。当時は、関刃

「刃物まつり 開幕迫る」

関の刃物の魅力や、刃物まつりについて語る北村正敏さん＝関市の株式会社「北正」で



節目控え盛り上げたい

物卸売商業協同組合の有志が、みかん箱を使って展示台を作り、刃物売っていった。これだけ盛大な祭りとなり、感慨深い。

―関の刃物の魅力は。切れ味はもちろん、デザ

インや品質が優れている。外国の刃物メーカーの中には、自社製品の生産を関の

―今回の刃物まつりにかける意気込みは。四十周年を迎える来年の

まつりに向け、これまで以上に盛り上げたい。全国の愛知県の自治体などを訪ねてPR活動を展開している。

刃物は正しく使えば、こんなに便利な道具はない。犯罪で使用されると、危険なイメージを持たれてしまつのは残念だ。まつりに合わせ、子どもたちを対象にした鉛筆削り教室を開くなどして、刃物を正しく使う運動を広げたい。まつりを通して、関の刃物の魅力を一人でも多くの人たちに知っていただきたい。



たくさんの買い物客でにぎわう刃物大販売市＝昨年、関市内で